

第59回学習会を、平成27年5月15日(金)19:00~20:00福岡市教育センターにて行いましたので報告いたします。

## 第59回の内容

講師 重枝一郎先生

文武両道を体現する生徒が数多く活躍する学校を目指して 1

- 1 「文武両道」の意味と3つの基礎的条件
- 2 「感覚」を育てる手立て
- 3 1学期の「協力・参加・体験」
- 4 ビデオ「福翔高1年生 生徒指導総合講座」
- 5 演習「聴く」ことについて



## 文武両道を体現する生徒が数多く活躍する学校を目指して 1

### 1 「文武両道」の意味

「文武両道」とは、一人一人の人間が「文」にも「武」にも長けていることであり、「文」とは勉強のこと、「武」とはスポーツをはじめとする為すことによって学ぶすべてのものをいう。したがって、運動部も文化部も生徒会も係・ボランティア活動もすべて「武」と考える。そして、為すこと(経験を伴った学び)により、自らを向上させる体験を通して、劇的に変化する多様な社会に対応する能力を身に付けることが求められている。本校は、この「文武両道」を体現する生徒を多く育成することで、学校文化を醸成している歴史がある。

### 2 生徒に話す文武両道

サッカーで言えば「1秒でも早く相手よりボールを追いかける姿」、野球で言えば「一歩でも早くボールをキャッチする姿」、陸上で言えば「1cmでも高く、遠くに跳ぶ姿」このような姿が授業等での部活と授業の相乗効果が出る学校のこと。

### 3 「文武両道」であるための3つの基礎的条件

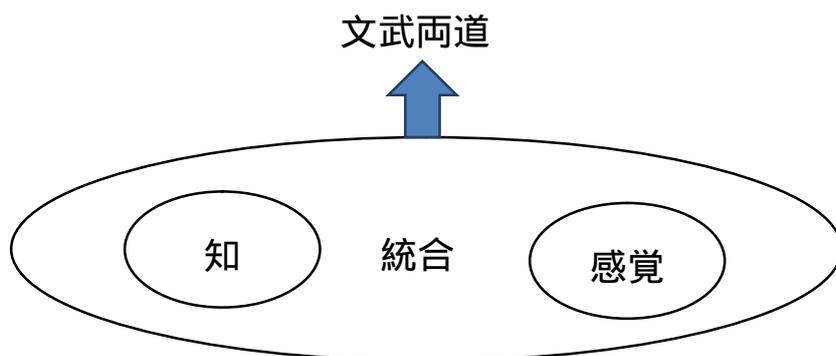
互いのよさや可能性を發揮できる「学習活動づくり」

互いのよさを認め合える「人間関係づくり」

安心・安全に過ごせる「環境づくり」

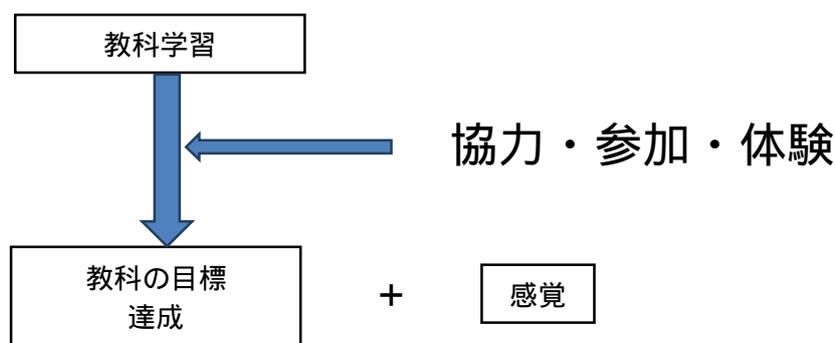
### 4 頭ではわかっているが・・・

- ・意義を頭ではわかっている。しかし、行動が伴っていないことはよくある話。
- ・「知」と「感覚」を統合させることが大切な指導になる。
- ・「感覚」は日常の積み重ねでしか培うことはできない。つまり、すべての教育活動において育むことが大切である。
- ・一日の大半は教科の授業であることから、そこで「感覚」を育てる手立てがいる。



## 5 「感覚」を育てる手立て

自分で「感じ、考え、行動する」場の設定が必要である。それを教科の授業の中で行うことがポイントになる。



## 6 1学期の「協力・参加・体験」

- |        |  |
|--------|--|
| 出会い    | 『仲良く、いい友達になろう』をすりこむ。<br><u>安心感・期待感・ふれあい</u>          |
| 団結力    | 『協力体験』をしくむ<br><u>自己存在感・所属感</u>                       |
| 友だちづくり | 『マイナスのグループ化・暗い表情・表面的』にならないように支援<br><u>他者理解</u>       |
| 認め合う   | 『よいところさがし』でネガティブなムード・自己中心的にならないように支援<br><u>自己肯定感</u> |

## 7 「協力・参加・体験」の振り返りは、『自己盲点』がポイント

自分の可能性は「気づき」の中から生まれる。

誰にでも多くの「自己盲点」がある。

だから人との交流を大切にする。

人は人で磨かれる。

自尊感情 + 自己盲点 = 自己理解

## 8 担任が、初頭効果の実感をもてるか

- (1) 教師のリーダーシップ(教示的, 説明的)を發揮する。  
やり方を教える, 見せる 係活動で評価(一人一役制) 維持ルールをつくる
- (2) リレーションづくりの演習を取り入れると同時にルールの必要性(ルールがあるからみんなと仲良くできる)
- (3) 活動をする中で, 学習ルール, 生活ルール, 対人ルール(3つのルール)を契約し, どんなことを大切にす学級なのか, 意味の共有, 感情の共有, 行動の共有(3つの共有)を図る。
- (4) 昨年度の振り返りと改善点をGWTで行う。(中1は小6のときの学級目標?)

この時期の「荒れ」は目立たない。ルールがなく, だらしない雰囲気は人間関係の不安を高める。その不安をごまかそうと同調的な行動をしたり, 排他的なグループを形成したり, 自己中心的に振舞う生徒が定着してしまう。

## 9 その先のビジョンを示す

- (1) 1学期末に2学期の学級づくりを進める
  - ・ゆるみがちな6, 7月をしっかりと生活させる。その姿を評価として2学期の学級組織決めにつなげる(また, その先に生徒会役員がある)。正当な評価になるように1学期末に2学期のリーダー決めをする。そのために友だちをきちんと見ていくことを意識させる。
- (2) その先にある世界を示す
  - ・1学期の「荒れ」は目立たない(荒れはじめ)  
2学期は問題行動が表面化してくる(トラブルが絶えないようになり, 本来生徒に対してしたいことができなくなる)
  - ・3学期の「荒れ」ははっきりしている(崩壊)
  - ・「維持ルール」が定着したクラスは「向上ルール」(集団, 個人がよりよくなる。みんなの思いが出る)に発展し, 誰とでも組める力(2学期テーマ)の育成につながる。

## 10 いじめ防止対策で一体感を出す(開発的生徒指導)

- (1) GWTを通して, 協力のよさ, 友だちのよさ, 自分のよさ(3つの気付き)の気付きを促進する。
- (2) いじめ問題解決のための学年指導, 部活動指導

### 【ビデオ】

「福翔高1年生OR(生徒指導総合講座)」(説明プリント別紙)

### 【演習】

「聴く」ことについて

- ・バスの運転手
- ・五感で聴く(イライラ, ワクワク, 悲しい, 落ち込み, やる気なし, やる気満々)
- ・ポジティブリスニング(人の話を聴くことで人生の80%は成功する)

子どもに話す文武両道

例えば、「文武両道」を体現する生徒の育成を学校目標に掲げているのであれば、その「意味」を教師が自分の言葉で子どもに伝わるように語ることができると、「学校文化」の醸成につながります。

「文武両道」とは、一人一人の人間が「文」にも「武」にも長けていることです。

「文」とは「勉強」のことです。

「武」とは「スポーツをはじめとする為すこと（経験を伴った学び）によって学ぶすべてのもの」です。それを、子どもに伝わるように、どんな風に語りますか。

「サッカーで言えば、相手より1秒でも早くボールを追いかける姿」

「野球で言えば、一歩でも早くボールをキャッチする姿」

「陸上で言えば、1cmでも高く遠くに跳ぶ姿」

このような姿が授業でも出る。部活動と授業の相乗効果が出るのが「文武両道」

「運動場に石がたくさん落ちているような状況で部活動をするのと、きれいに整備されている所ですのでは、意欲や勢いに差がでる。環境はとても大切。だから、グラウンド整備が大切。授業も同じ。きれいに掃除をした教室で勉強すると、勢いが生まれる。それが、文武両道」

このように、さまざまなことと関連させて、子どもに伝えることができます。

3つの基礎的条件

「文武両道」でも「人権教育」でも何にでも言えるのですが、学校教育で大切な3つの視点があります。それは、「学習活動づくり」「人間関係づくり」「環境づくり」であり、それらを関連付けて行えば、授業改善にもキャリア教育にも部活動の活性化にもつながります。

学校教育のそれぞれの場面において、互いのよさを発揮できる取組を意識した「学習活動づくり」、互いのよさを認め合える仲間づくりを意識した「人間関係づくり」、そして、安全・安心に過ごせる教室・部活動づくりを意識した「環境づくり」を三位一体で行うと、相乗効果が上がります。そのような取組を通して、生徒一人一人が「自分は大切にされている」と実感し、人権感覚を養い、文武両道を体現する生徒を育成することにつながるのです。

「感覚」を育てる

「感覚」を育てるためには、自分で「感じ、考え、行動する」場を設定し、実際に体験させることが有効です。感じて考えたことを言語化することで、行動が積極的になります。子どもは実際にしてみることで、気付くことができます。

「感覚」は、日常の積み重ねでしか培うことはできません。一日の大半は教科の授業なので、教科の授業を含めたすべての教育活動において育むことが大切です。

「知」は、一人で本を読んでも獲得することができます。しかし、「感覚」は、人との関わりやつながりの中でしか獲得できません。「人は人で磨かれる」という言葉があります。毎日の授業の中に、「協力・参加・体験」する活動を学習過程に組み込み、積み重ねます。それは、アクティブ・ラーニング型授業の考え方や重なります。このように、「知」と「感覚」を統合させることが、大切な指導になります。

これは、人権教育における「知的理解」と「人権感覚」の統合ともつながります。アクティブ・ラーニング型授業も人権教育もコミュニケーション力の向上も、すべては同じ考え方であり、置き換えたり関連付けたりすることができます。教師自身が、このような考え方や教育観をもって指導できることが重要です。

対象をはっきりさせれば、「いじめ防止」「不登校防止」「部活動活性化」「学力向上」「体罰によらない生徒指導」「開発的生徒指導」など、いろいろな教育目標にすることが期待できます。このように、「このためにこれをする」ではなく、「統合する」という考え方で、すべての生徒を対象に、すべての教員が関わります。

## 魅力的な学校にある「一体感」と「多様性」

地域や保護者に発信する場合、「一体感」と「多様性」の両面がないと、魅力的な学校とは言えません。「学校は、こんな学校です」と、どの先生も言えるのが「一体感」です。「社会科の先生はこんな先生です」「部の先生は、～です」と、それぞれの先生方が持ち味を生かしている学校は、「多様性」のある魅力的な学校です。そのような学校の魅力を、地域や保護者に発信する「発信力」が学校には求められています。そのような「一体感」と「多様性」がある学校は、必ず教育効果を上げ、結果を出すことができます。

## 「振り返り」の意義

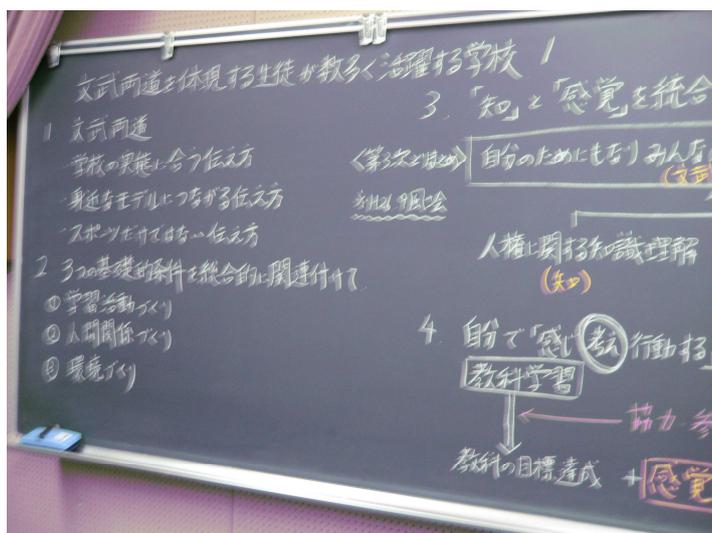
「協力・参加・体験」活動をした後には必ず、「振り返り」をきちんとします。その時に、友達からプラスのメッセージをもらうことで、自己盲点に気付き、可能性が広がります。自己肯定感が高まります。特に、思春期は友達の影響が大きく、友達からのプラスメッセージは教育効果が高いのです。

教師は、少し先のビジョンを示し、子どもの可能性を开花させるように働きかけます。

## 勝負は6月のクラス

4月のクラスは緊張感があり、5月は体育会などの行事があり目標をもって学校生活を送ることができます。しかし、6月はクラスにも慣れ、ゆるみが出る時期です。子ども同士の人間関係も問題が出てくる時期です。ここで失敗すると、その後がきびしくなります。教師は先手で何かを仕掛けていく必要があります。ここで、「いじめ防止」に取り組むのも効果的です。

6月の風土会は、「いじめ防止」をテーマにした内容が多いので、今までの「会報」を参照してください。



## 演習 「マラソンランナー」

6～7人組で行うエクササイズです。

マラソンをしている人の絵が描かれた情報カードを1人1枚持ち、そのカードを人には見せずに情報を出し合って、先頭から数えて4番目に走っている人のゼッケン番号を当てます。

25分の制限時間を設定します。自分が持っている情報の中で、今、何が大切かを判断し、進行状況に応じて必要な情報をタイムリーに提供できる力が必要です。また、自分の役割をみつけ、積極的に課題解決に向けて貢献できる力を身に付ける内容です。

背景を頼りに、山が繋がっている人、家がつながっている人・・・というように、情報をつなげていきます。タイムリーに発言する力が課題解決のカギを握っています。つまり、他の人の情報をよく聞いて、関連する情報を伝えること。他の人が話しやすい雰囲気をつくること。質問して話を引き出すことなどが求められます。積極的にコミュニケーションをとることで、「協力・参加・体験」を実感できます。

この活動の後に、必ず「振り返り」を行い、誰のどんな発言や行動がよかったかをシェアリングします。そのような「認め合う」活動や「感情交流」を通して、「人のためにもなり、自分のためにもなる」実践行動や思いやりを身に付けていきます。

自分で「感じ、考え、行動する」トレーニングを積み重ねることで、「感覚」を育てます。



## 演習 「聴く」TR ～人の話を聴くことで人生の80%は成功する～

「あなたはバスの運転手です。赤坂で5人降りました。唐人町で男性が3人、女性が2人乗ってきました。西新で小さな女の子が1人乗ってきました。姪浜では誰も乗ってきません。

さあ、バスの運転手は何歳でしょう？」

答え：あなたの年齢

「あ」「り」「が」「と」「う」 5人に同時に言わせて、聴き取る。

五感で聴く 「イライラ」「ワクワク」「悲しい」「落ち込み」「やる気なし」「やる気満々」  
言葉を言わせて、どんな気持ちで言ったのかを当てさせる。

「聴く」ってこんな感じという「感覚」を積み上げます。やりとりがおもしろいので、教師と子どものインナールールが高まります。

また、「ポジティブ・リスニング」とネーミングして、それをインナールールにします。そのような空気をつくり、維持ルールから向上ルールへと「契約」「再契約」を結びます。

ハーリスの3ない 「しゃべらない」「さえぎらない」「否定しない」

ポディリスの3く 「書く」「向く」「うなずく」

「感じ・考え・行動」させます。

## 今回のキーワード

文武両道の基礎的条件「学習活動づくり」「人間関係づくり」「環境づくり」  
「知」と「感覚」の統合  
「感じ・考え・行動する」  
「協力・参加・体験」

### 学習会に参加された先生方の感想

(参加人数 23名)

- ・新しい学校に異動し、職員との関わり方や生徒との信頼関係のつくり方などについて日々考えていました。何かヒントが見つければと思い、参加させていただきました。体育大会も近いので、今日学んだ「一体感と多様性」を重視した教育活動を行いたいです。
  - ・久しぶりに参加することができました。毎回、刺激を受けて帰ります。いろいろな話を聴いて、こんなこともやってみたい、こんな風に言えたらいいのにと、重枝先生の言葉をひとつでも逃さないように聴いて帰りたいと思います。でも、これを実践にうつすことがなかなか難しいです。タイミングを逃したり、あー、これも言えばよかったんだと後で思ったり。でも、今勉強していることを必ず自分のものにして、実践したいという気持ちだけはあります。今年とはびこみ3年生で、生徒指導にとっても苦労しています。子どもとの関係、親との関係、昨年と同じことを指導しているのに伝わらないなど、ストレスがたまりつつありますが、とにかく教員とのチームワークを大切にがんばってみたいと思います。今日もまた、元気をいただきました。
  - ・今、自分の学校では「学び合い」をしています。今日の講座内容にリンクしていると思いました。授業から、生徒同士の仲間関係を構築すると全てがつながって、より学校や学年がよい集団になるなど改めて感じました。「聴く」というエクササイズは、来週、授業の最初に取り入れ、生徒を引きつけたいと思います。しかし、それだけではなく、授業内容も充実したものにしないとと思います。演習の「マラソンランナー」もとてもおもしろかったです。重枝先生の講座は、絶対に眠くなりません。この謎も解明したいと思っています。
  - ・4月より学年を持ち上げらず、昨年度とは違う学年に所属しています。今日、教えていただいた内容を取り入れ、子どもたちとの関係を深めていきたいです。また、教科の授業においても、感じ・考え・行動するトレーニングを深められるよう工夫していきたいです。
- (新年度になり、新たな環境の中で先生方が悩み・感じ・考え・工夫し・行動されていることに敬意を表します。私もそのひとりです。風土会で学んだことを実践する効果を実感しています。即効性はないけれど、漢方薬のようにじわじわと効き目があるように思います。継続すること、繰り返すことが大切だと思います。)
- ・初めて後輩の先生を誘って、参加させていただきました。ずっと参加したいと思っていたので、念願が叶いました。理論と実践がしっかり融合し、分かりやすい講義と演習でした。いろいろな研修会に参加しても、なかなか出会えない研修会でした。時間がゆるす限り、次回、その次・・・と参加したいし、学びたいと思いました。
  - ・初めてこの学習会に参加させていただきました。とても身になる学習会でした。今、小学校2年生の担任なのですが、信頼・我慢が足りていない子どもが多いなあと思いながら聴いていました。そして、聴くということが今年の2年生のテーマです。ゲームを取り入れながら、実感させていきたいと思っています。今日参加して、本当によかったです。時間をかけて、じっくりやっていきたいと思っています。
  - ・文武両道という言葉は、自分が高校生だったときも今もよく使う言葉ですが、その意味を今回のように考えたのは初めてだったように思います。授業においても部活動の指導においても、今後、実践していきたい内容ばかりだったので、積極的に取り入れていきます。重枝先生の生徒への声かけの仕方、タイミングについても参考にしていこうと思います。今回、初めて参加させていただきましたが、大変有意義な時間になりました。また参加させていただきたいと思います。

(今回、小・中・高校の先生方がそれぞれ、初参加されています。今後ともよろしく願いいたします。)